

台湾新聞資料②

『台湾日日新報』『台湾新聞』『台南新報』ほか
1930(昭和5)年—1931(昭和6)年

霧社事件

所蔵 財団法人 台湾協会

制作 財団法人 交流協会

監修 河原 功

台湾新聞資料②

解説 河原 功

霧社事件

1930年(昭和5)10月27日、台湾中央部の山地「霧社」で、多数の原住民(いわゆる「高砂族」、当時日本人は「蕃人」「蕃族」と呼んでいた)が蜂起した。蜂起に参加したのは、霧社分室管内の「霧社蕃」11社(村落)のうち、マヘボ社、ボアルン社、ホーゴ社、ロードフ社、タロワン社、スーク社の6社を中心とする男たち約300名であった。当日は霧社公学校で、恒例の公学校・各蕃童教育所・小学校の連合運動会が開かれる日だった。そのため霧社の人口はかなりふくれあがっていた。蜂起した原住民は、その会場を襲撃するとともに、霧社分室をはじめ、学校・郵便局・各職員宿舎・民家および分室を中心とする付近の駐在所12ヶ所を襲撃して、日本人(いわゆる「内地人」)134名、台湾人(当時は「本島人」と呼ばれていた)2名、あわせて136名を殺戮した。それとともに駐在所の多くを焼き払い、銃器180挺、弾薬約2万3000発を奪い、ところどころに堡塁を築いて、日本側の反撃に備えた。

事件勃発当時、霧社管内の在住者と生死者は次のとおりであった。

	在住者	死亡者	生存者
内地人	227	134	93*
台湾人	142	2	140

*負傷後死亡2名、避難中罹病死1名、重症6名、軽症12名

台湾人死亡者2名は、ひとり日本の着物を着ていたためにまちがって殺された9歳の少女であり、もうひとは流れ弾に当たって死んだ者だという。この生死者の数値からみても、霧社事件が内地人/日本に抵抗しての蜂起であることは明らかだった。

日本人を対象とする原住民蜂起でありながら、日本側は事件の原因を、原住民が野蛮で、単純で、蒙昧な点にあるとして、突発的に起こった事件として印象づけようとした。

事件勃発の知らせを受けた台中州では、ただちに警察隊を現場に急行させた。事態を重くみた総督府でも、他州の警察隊の応援を命じ、警察隊支援のため軍部に対して飛行機ならびに軍隊の出動を要請した。当局では、事件が長期化し拡大することによって、台湾島内の治安悪化、中国大陸の反日運動への波及、さらに日本の政界に与える波紋等を恐れたのである。

事件発生後まる2日で霧社奪還に成功するや、その翌日(30日)、軍司令部は「邦国ノ施政ニ反逆スル兇蕃を殲滅スベシ」という討伐令を発した。これを境にして、出動以来もっぱら警察隊の支援に任じていた軍隊が、みずから第一線に立つことになった。「鎮圧」は「戦闘」という積極的行動にその姿を変えた。霧社一帯に大量の兵力と武器弾薬が投入された。かくして反抗原住民対策の主導権は、警察隊の手から軍隊の掌握するところとなり、徹底した討伐が進められていった。日本軍は「味方蕃」を使役し、山砲から飛行機まで投入して、反抗原住民をマヘボ岩窟に追いつめて、連日集中攻撃を加えた(最近の研究では、日本軍は霧社事件鎮圧の過程で毒ガスを使用したとされている)。

いっぽう反抗原住民に投降を呼びかける工作もおこなった。投降勧告のビラ6000枚を空中か

ら散布し、その勧告にしたがって約 500 名が投降した。

霧社事件は 2 ヶ月にわたる長期戦によりいちおう終息した。事件が一段落したあと、抵抗原住民の人口は 1,236 名から 514 名と、半減した。警察隊や軍隊との戦闘で死亡した者もいるが、「味方蕃」と呼ばれた同じ原住民によって殺された者もいる。犠牲者のなかには 450 名を越す自殺者もいたという。

衝撃的な事件だけに、激しい報道競争が展開された。ニュース映画(映画館上映用)も撮られた。報道関係者に対しては電報、郵便、写真、記事などすべて検閲されたが、報道された情報量は多かった。

日本側に投降した反抗原住民 514 名は、「保護蕃」と称されて、シーパウ方面、ロードフ方面にそれぞれ收容された。收容所は木柵、鉄条網、掩保に囲まれていた。霧社分室管内の警察官・警手の数は、事件当時 86 名だったのが、事件後の 1931 年 4 月には 4 倍強配置されていた。ところが同年 4 月 25 日、保護蕃は突然タウツア蕃 230 名あまりの襲撃を受けた。これによって保護蕃は、次のように激減した。

收容箇所	事件前人数	死亡者	行方不明	生存者
ロードフ	195	63	6	126
シーパウ	319	147	—	172
計	514	210	6	298

保護蕃の死亡者の多さに対して、タウツア蕃の戦死者はわずか 1 名であった。

「第二霧社事件」と言われるこの保護蕃襲撃事件は、江川博通『昭和の大惨劇・霧社事件』(私刊本、1970 年 7 月)の中ではじめて、当時タウツア駐在所勤務の一警察官の手紙から、これが山地警察官の煽動によるものだということが立証されるにいたった。「味方蕃」に貸与してあった銃器弾薬をスムーズに回収するためには彼らに報復の機会を与える必要から、現場の警察官によって仕組まれた事件だったのである。

この保護蕃襲撃事件を契機にして、保護蕃に対して移住計画が急速に進められ、5 月 6 日、一部残留者を除く約 300 名の川中島強制移住が敢行されたのであった。かつて反抗原住民が所有していた土地は官有となり、その一部分を「味方蕃」だったタウツア・トロック両蕃に分与して彼らの半数 300 名近くをこの地に移住させた。難を逃れて下山した台湾人には再び霧社に戻ることが許されなかった。

こうして、霧社事件は霧社の地から消滅がはかられ、また総督府の台湾統治史からも消滅されていくのだった。

この新聞資料からは霧社事件の全容は見えてこないし、真相の究明にもつながらない。しかし、当時の新聞報道がどう霧社事件を報道しようとしたか、そのことによって読者が霧社事件をどうイメージしていったかが読み取れるであろう。

参考文献

霧社事件への関心は今なお高く、多くの研究書、資料、小説などがある。

戴国輝編著『台湾霧社蜂起事件 研究と資料』(社会思想社、1981 年 6 月)、そして同書中の河原功編「霧社蜂起事件関係文献目録」が最も詳しいので、それを参照されたい。それ以降に出た参考

文献も多いが、その一部をあげると次のとおりである。

- 西村望『もう日は暮れた』立風書房、1984年10月
見上保『台湾霧社事件の今昔』見上保、1984年12月
折田良雄『血と民族』近代文芸社、1985年10月
許介麟解説『証言霧社事件』草風館、1985年12月
寺田勉『太陽の怒り 高砂族の反乱』白帝社、1986年1月
ピポワリス(高永清)(加藤実編訳)『霧社緋桜の狂い咲き』教文館、1988年1月
於保忠彦『大酋長モーナの戦い』芸文堂、1991年2月
春山明哲編『台湾霧社事件軍事関係資料』不二出版、1992年1月
郡楠昭『霧と炎 ドキュメント小説霧社事件』三一書房、1992年7月
邱若龍作・画(江淑秀・柳本通彦訳)『霧社事件』現代書館、1993年4月
柳本通彦『台湾・霧社に生きる』現代書館、1996年3月
内藤史朗『霧社の光と闇』新人物往来社、1999年1月
向山寛夫『台湾高砂族の抗日蜂起－霧社事件』中央経済研究所、1999年3月
下山操子(柳本通彦訳)『故国はるか 台湾霧社に残された日本人』草風館、1999年8月
鄧相揚(下村作次郎・魚住悦子訳)『抗日霧社事件の歴史』日本機関紙出版、2000年6月
鄧相揚(下村作次郎・魚住訳)『日本人警察官の家族たち』日本機関紙出版、2000年8月
中村ふじゑ『オビンの伝言－タイヤルの森をゆるがせた台湾・霧社事件』梨の木舎、2000年10月
鄧相揚(下村作次郎・魚住訳)『抗日霧社事件をめぐる人々』日本機関紙出版、2001年11月
林えいだい『霧社の反乱・民衆側の証言』新評論、2002年12月

所蔵、制作、監修について

この台湾新聞資料②に収めた新聞は、『台湾日日新報』に加えて、『台湾新聞』(台中)『台南新報』(台南)、それに内地系の新聞である。「霧社事件」を報道した記事が中心だが、そのすべてではなく、一部分に過ぎない。しかし、『台湾日日新報』以外の新聞は容易に見ることができないため、極めて希少価値が高い。

なお、当時は夕刊も発行されるようになっていた。ここで注意したいことは、夕刊紙は当日の夕方に配達されるのではなく、翌日の朝刊と一緒に配達されていたということである。つまり、夕刊の紙面の上にある日付は、翌日の配達日ということになる。

原紙は(財)台湾協会が所蔵している(向山寛夫氏及び新原重志[霧社公学校の校長]遺族の寄贈)が、劣化が激しく、一般の閲覧に供する事は出来ない状態であった。幸いにして、(財)交流協会が制作に関わってくださり、こうして閲覧が可能になった。両機関に感謝申し上げたい。なお、両機関の委託を受けて、河原功が監修に当たった。

収載した紙面は以下のとおりである。

★ (マイクロフィルムに全部または一部未収録)

台湾日日新報

S5.10.29 10970号 夕刊

P1-2(一部)(P3-4欠)

S5.10.29	10970号	朝刊	P1-4
S5.10.30	10971号	夕刊	P1-2(P3-4欠)
S5.10.30	10971号	朝刊	P1-2,7-8(P3-6欠)
S5.10.31	10972号	夕刊	P1-2(P3-4欠)
S5.10.31	10972号	朝刊	P1-8 ★
S5.11.1	10973号	夕刊	P1-2(P3-4欠)
S5.11.1	10973号	朝刊	P1-2,5-10(P3-4欠)
S5.11.2	10974号	夕刊	P1-2(P3-4欠)
S5.11.2	10974号	朝刊	P1-2,5-8(P3-4欠) ★
S5.11.2		号外(両面)	1枚
S5.11.3	10975号	朝刊	P1-8
S5.11.4	10976号	夕刊	P1-2(P3-4欠)
S5.11.5	10977号	夕刊	P1-2(P3-4欠)
S5.11.5	10977号	朝刊	P1-2,5-8(P3-4欠)
S5.11.6	10978号	夕刊	P1-4
S5.11.6	10978号	朝刊	P1-8
S5.11.7	10979号	夕刊	P1-4
S5.11.7	10979号	朝刊	P1-8
S5.11.8	10980号	夕刊	P1-4
S5.11.8	10980号	朝刊	P1-8
S5.11.9	10981号	夕刊	P1-4
S5.11.9	10981号	朝刊	P1-8
S5.11.10	10982号	朝刊	P1-8
S5.11.11	10983号	夕刊	P1-4
S5.11.11	10983号	朝刊	P1-8
S5.11.12	10984号	夕刊	P1-4
S5.11.12	10984号	朝刊	P1-8
S5.11.13	10985号	夕刊	P1-4
S5.11.13	10985号	朝刊	P1-8
S5.11.14	10986号	夕刊	P1-4
S5.11.14	10986号	朝刊	P1-8
S5.11.15	10987号	夕刊	P1-4
S5.11.15	10987号	朝刊	P1-8
S5.11.16	10988号	夕刊	P1-2(一部切れ),3-4
S5.11.16	10988号	朝刊	P1-6(P7-8欠)
S5.11.17	10989号	朝刊	P1-8
S5.11.18	10990号	夕刊	P1-4
S5.11.18	10990号	朝刊	P1-8
S5.11.19	10991号	夕刊	P1-4

S5.11.19	10991 号	朝刊	P1-8
S5.11.20	10992 号	夕刊	P1-4(一部破れ)
S5.11.20	10992 号	朝刊	P1-8
S5.11.21	10993 号	夕刊	P1-4
S5.11.21	10993 号	朝刊	P1-8
S5.11.22	10994 号	夕刊	P1-4
S5.11.22	10994 号	朝刊	P1-8
S5.11.23	10995 号	夕刊	P1-4
S5.11.23	10995 号	朝刊	P1-8
S5.11.24	10996 号	朝刊	P1-4
S5.11.25	10997 号	夕刊	P1-4
S5.11.25	10997 号	朝刊	P1-8
S5.11.26	10998 号	夕刊	P1-4
S5.11.26	10998 号	朝刊	P1-8
S5.11.26	10998 号	号外	1 枚 ★
S5.11.27	10999 号	夕刊	P1-4
S5.11.27	10999 号	朝刊	P1-8
S5.11.28	11000 号	夕刊	P1-4
S5.11.28	11000 号	朝刊	P1-8
S5.11.29	11001 号	夕刊	P1-4
S5.11.29	11001 号	朝刊	P1-8
S5.11.30	11002 号	夕刊	P1-4
S5.11.30	11002 号	朝刊	P1-8
S6.4.26	11147 号	朝刊	P7-8(P1-6 欠)
S6.4.27	11148 号	朝刊	P7-8(P1-6 欠)
S6.10.28	11331 号	夕刊	P1-4
S6.10.28	11331 号	朝刊	P1-8

台湾新聞

S5.10.30	9922 号	附録(両面)凶蕃討伐隊画報	★
S5.11.3	9926 号	朝刊	P3-4 ★
S5.11.6	9929 号	夕刊	P1-4 ★
S5.11.6	9929 号	朝刊	P3-6 ★
S5.12.1	9954 号	朝刊	P1-6 ★
S5.12.12	9965 号	朝刊	P1-2(一部破れ),7-8 ★
S5.12.14	9967 号	朝刊	P1-2,7-8 ★
S5.12.19	9972 号	附録(両面)台中州協議会	★
S5.12.25	9978 号	朝刊	P7-8 ★

S5.12.27	9980号	朝刊	P7-8 ★
S6.1.12	9995号	朝刊、新竹版	P1-2(一部破れ) ★
S6.1.31	10014号	朝刊	P1-2 ★
S6.2.6	10020号	朝刊	P1-2 ★
S6.10.26	10281号	夕刊	P1-4 ★
S6.10.26	10281号	朝刊	P1-4 ★
S6.10.27	10282号	夕刊	P1-4 ★
S6.10.27	10282号	朝刊	P1-8 ★
S8.10.31	11011号	夕刊	P1-4 ★

台南新報

S5.11.4	10342号	夕刊	P1-4 ★
S5.11.7	10345号	夕刊	P1-4 ★
S5.11.11	10349号	夕刊	P1-4(P1-2 一部切れ) ★

鹿児島朝日新聞

S5.11.1	10638号	朝刊	P1-8 ★
---------	--------	----	--------

大阪朝日新聞 附録九州朝日

S5.11.8	号外	1枚(両面) ★
---------	----	----------

大阪毎日新聞

S5.11.3	号外	1枚(両面) ★
S5.11.6	号外	1枚(両面) ★

大阪毎日新聞 西部毎日

S6.4.30	号外	1枚(両面) ★
---------	----	----------

国民新聞

S6.4.26	14140号	朝刊	P1-2 ★
---------	--------	----	--------

以上